



アカマツに覆われた小さな山です。

市街地に一番近い善通寺の裏山

香色山は総本山善通寺の裏にあるお椀わんをふせたような山です。標高153.2m。頂上には「佐伯直遠祖坐神」と刻んだ石廟せきやうがあり、傍らに京極家の寄進である不動明王と愛染明王の石像が並んでいます。石像の背面には、江戸時代にこの場所で経塚きやうづかが発見された際の記録が克明に記されています。また、物事に動じない心を授け、無病息災、滅罪の功德あしぬくによらいがあるという「阿闍如来」の石仏が見守っています。弥生時代の石棺墓群とともに、複数の経塚が確認されています。特に1号経塚は

平安時代後期のもので、全国で唯一の上下2段構造(2世代用)であることが判明し、県の史跡に指定されました。

山頂からの眺めはすばらしく、展望所からは善通寺市街や丸亀平野、瀬戸内海の島々まで見渡すことができます。



頂上遺跡(1号経塚と石棺墓が保存整備されています。)

誰でも挑戦できる四国巡礼のミ二版

総本山善通寺の駐車場前の五智院を出発点として、四国八十八箇所霊場をなぞるミ二遍路です。天正14(1586)年、九州の島津氏と豊臣秀吉の命を受けた四国勢が豊後戸次川ぶんごへつぎがわで戦い、仙石秀久の無謀な戦略により大勢が犠牲となりました。それから二百余年を経た江戸時代の寛政10(1798)年に、「戸次川の戦い」の犠牲者を悼む意味もあり、一寺一仏の石像が香色山の山裾に完成したといわれています。

ミ二遍路は、第1番札所(五智院)のお堂で釈迦如来を拝んだ後、山裾の石仏をたどりながら進みます。54番と67番の前に休憩スポットがあり、79番の前から大師お杖の水つえの闍伽井あかいへと降りていく道もあります。

現在も、多くの人が1周約1,600mの山道を歩いて日々の体力づくりに励んでおり、五智院の前には3,000日以上歩いた方々の名札が掛けられています。1番から88番までの石仏を拝みながら自分のペースで巡ってみてください。



石仏を拝んで88ヶ所を巡ります。



- 善通寺町1050-1
- JR善通寺駅から徒歩約20分。
総本山善通寺駐車場の前、五智院北側に登山口がある。
登山口から山頂まで徒歩約20分。
五智院から周回するコースあり。